

地震発生時の行動

地震の揺れを感じたら、どんな場所でも「**あわてず、まず身を守る**」ことが大切です。

地震発生

身の安全を確保

緊急地震速報

- 震度3以上の揺れが予想される地域に対して発表されます。
- テレビ・ラジオ・携帯電話・スマートフォンなどから入手することができます。ただし、携帯電話・スマートフォンは震度4以上の強い揺れが起こると予想される地域に配信されます。
- 発表から揺れが来るまで数秒から数十秒しかないため、速やかに身の安全を確保することが重要です。

- 頭を保護し、机やテーブルの下へ
- あわてず素早く火の始末
- 非常脱出口の確保(部屋のドアを開ける等)



1～2分

揺れがおさまるのを待って

- 家族の安全確認
- 非常持出品を用意する
- 火元を確認する
- 靴をはく



3分

余震に注意

- 周辺住民への声かけ



5分

正しい情報を集める

- デマを信じない
- 正確な情報を収集



10～15分

落ち着いて速やかに避難

- 火災防止の為、ブレーカーをおとす
- 山崩れ、がけ崩れに注意
- 安全な避難経路の確認



半日～3日

避難後は助け合いの心で

- 地域で協力して応急救護の体制を
- 災害情報、被害情報の収集
- 飲料水、食料の確保



停電時の備え

備え① 安全に避難するためには

夜間の場合、出口がわからない、床の段差やガラスの破片が見えないなど、とても危険です。

リビングや寝室などに懐中電灯や足元灯を備えましょう。

懐中電灯と足元灯とを兼ね、停電や地震が起きた時に自動的に点灯するタイプが有効です。足元灯の設置が難しい階段などには、残光テープが効果的です。



備え② 災害情報を確保するためには

インターネットや携帯電話などを利用できないおそれがあり、情報を得ることが困難になります。

ラジオや予備の電池を常備しておきましょう。

停電時、屋内で救助を待つ場合や屋内での避難生活に備えて

家庭用医療機器等については必要な予備バッテリーを備え、停電時の電源の切り替え手順などを確認しておくことも必要です。



揺れの強さ

揺れの強さは震度で表されます。各震度の強さを知り、地震が起きたときの対処法を想定しましょう。

緊急地震速報(予報)

震度3

屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。



震度4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。



緊急地震速報(警報)

震度5弱

- 大半の人が恐怖を覚え物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



緊急地震速報(特別警報)

震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
- ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が高い

耐震性が低い

震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い

耐震性が低い

震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造りの建物では、倒れるものが増える。



耐震性が高い

耐震性が低い

